



Scientific Systems

サイエンス・システム研究会

ISSN 1883-5554

SS研ニューズレター選集

vol.16



ニュースレター選集について

- ◆ 「SS研ニュースレター選集」は、サイエンティフィック・システム研究会（SS研）の分科会活動の活動報告として、1年間の講演資料から代表的なものを選出して冊子としたものです。

毎年5月のSS研通常総会に合わせて発行しています。

下記よりダウンロードできます。

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/> 資料ダウンロード ニュースレター選集

- ◆ 分科会活動の講演資料はSS研 Web サイトに掲載しています。
（一部SS研会員限定）

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/> 資料ダウンロード ニュースレター

表紙画像



右上	提供：広尾学園 中学校・高等学校 木村様
右下	ICTがつなぐ中等教育と学術研究との連続性 より
左	提供：理化学研究所 似鳥様 Suiren での HPL 及びアプリ性能について (+ Shoubu の話) より

ニ ュ ー ス レ タ ー 選 集 Vol. 16 目 次

◆巻頭言 サイエнтиフィック・システム研究会 会長 村上 和彰 (九州大学) (敬称略) 1

I. 総会 選出

- HPCの歴史から将来を見る 5
小柳 義夫(神戸大学)

I. システム技術分科会 選出

- 広島大学におけるパブリッククラウド活用事例
～クラウド化がもたらす本当の効果～ 19
相原 玲二(広島大学)
- 東工大 CERT の立ち上げと現在の取り組み 29
松浦 知史(東京工業大学)

II. 教育環境分科会 選出

- ICT がつなぐ中等教育と学術研究との連続性 39
木村 健太(広尾学園 中学校・高等学校)
- 大学教育におけるラーニングアナリティクスの利活用に向けて 51
緒方 広明 (九州大学)

III. 科学技術計算分科会 選出

- AI グランドチャレンジ「ロボットは東大に入れるか？」が投げかけるもの 57
穴井 宏和(国立情報学研究所/九州大学/富士通研究所)
- Suiren での HPL およびアプリ性能について (+Shoubu の話) 67
似鳥 啓吾 (理化学研究所)

IV. 合同分科会 選出

- 「オープンデータ」が先導する新たな社会 79
岩田 修一 (東京大学/事業構想大学院大学)
- 感染症シミュレーションから早期探知システムへ 101
大日 康史(国立感染症研究所)

◆ご参考 2015 年度活動一覧 121

□当冊子に記載された機関名、所属名、役職名および原稿の内容は、発表/執筆当時のものです。
□登録商標について
会社名、機関名、製品名は各社、各機関の商標または登録商標です。

巻頭言

サイエンティフィック・システム研究会
会長 村上 和彰
(公益財団法人九州先端科学技術研究所)

サイエンティフィック・システム研究会(SS研)は、大学や研究所などの科学技術分野におけるコンピュータ利用機関を主体とした研究会として1978年に設立されました。以来37年間、会員の相互利益を図ることを目的に、各種の分科会やWGなどの活動を通じて、コンピュータのシステム技術、応用技術、利用技術に関する質の高い情報共有・情報交換、そしてユーザとベンダーとの間での高度な議論の場として機能しています。これらのうち分科会活動の内容は『ニュースレター』で随時ご紹介しているところです。

この1年間のSS研の活動を振り返ってみますと、本冊子の巻末の活動一覧にあります通り、分科会、WG、タスクフォースともいずれも時宜を得た企画であり、有益な講演やディスカッションを行うことが出来たと思います。その中でも特に会員の皆様のご参考となると思われる講演資料を、皆様からのアンケート結果を参考にしながら選び出したのが、この『ニュースレター選集』です。現在開発中の「ポスト京」活用に向けた科学技術最先端のテーマはもちろんのこと、科学技術計算と人工知能との連携、教育研究現場におけるクラウド活用や情報セキュリティインシデント対策、またオープンエデュケーション、オープンデータ、オープンサイエンスへの取り組み、等々、正に旬なテーマを反映した選集になっているかと存じます。

16年にもわたって『ニュースレター選集』を発刊でき、今号第16巻を、会員の皆様に通常総会でお渡しできることは大きな慶びでございます。2009年発刊の第9巻からは、会員以外の方にも広くご覧頂けるようになりました。SS研の活動成果を会員が活用されるのと同様に、会員外へも積極的に情報発信することによって広く社会に役立てる方針の一環です。これもひとえに、活動に熱心にご参加頂いている会員の皆様、広報委員および関係者の方々のご理解・ご協力によるものであります。ここに厚く感謝するとともに、この選集が広く活用されることを願って止みません。

2016年5月